



初年次教育科目「大学生になる」

本学では、2016年度の教養教育カリキュラム改革において、初年次教育科目（「大学生になる」、「社会人になる」、「大人になる」、「NCU 先端科目」）を開設しました。今回の高等教育院通信では、「大学生になる」にフォーカスを当て、その授業内容、受講学生の状況、課題について紹介したいと思います。

授業内容紹介

初年次教育科目「大学生になる」は、高等学校までとは異なる、大学での主体的な学習というものについて理解してもらうことを目的とした授業科目です。講義をベースとしていますが、多くの回においてはある程度の時間をかけての課題作成を課しています。最後の4回ではグループワークを行い、それをもとにしたプレゼンテーションを実施します。

第1回	授業ガイダンス・情報検索の方法と利用における留意点（図書館利用）
第2回	大学の教授方法とノートの取り方
第3回	テキストの読み方とまとめ方
第4回	考える方法：ロジカルシンキング
第5回	レポートの書き方 1：レポートとは
第6回	レポートの書き方 2：パラグラフ・ライティング
第7回	レポートの書き方 3：分かりやすい文章表現
第8回	プレゼンテーション 1：言語表現
第9回	プレゼンテーション 2：ダイアグラムとデータの視覚化
第10回	プレゼンテーション 3：レイアウトとビジュアル表現
第11回	プレゼンテーション 4：話術と質疑応答の手法
第12回	グループワーク 1：役割分担決定、グループ討論
第13回	グループワーク 2：グループ討論、発表資料作成
第14回	グループワーク 3：発表
第15回	グループワーク 4：発表・振り返り

2016年の開講時には、教養教育センターから参考とすべき書籍数点を示すのみで、授業で扱う内容（スライド、資料、課題など含め）については、担当いただいた先生方にすべてをお任せするという形でのスタートでした。現在は、これまでの授業の資料として積み重ねてきた資産を Web 上にまとめ、担当いただく先生に利用していただける体制をとっています。

学生の受講状況と評価

本科目は週2回、8週間で完結するターム制の科目です。定員は1ターム80名×2=160名となっており、ここ数年はほぼ充足している状態です。（なお、経済学部、人文社会学部では、同等の内容を含んだ「基礎演習」が必修となっているため、本科目は自由科目としています。）

以下の表は、授業評価アンケートから「総合評価(5点満点)」と、そのうち4点、5点の占める割合についてのみを抜粋したものです。

	履修者数	回答数	総合評価	4+5 (%)
2016 1T	41	35	3.83	71.43
2T	86	79	3.47	50.63
2017 1T	109	98	3.62	55.10
2T	79	56	3.55	48.21
2018 1T	80	73	3.38	49.32
2T	79	73	3.80	56.16
2019 1T	79	69	3.70	60.87
2T	79	62	3.71	51.61

残念ながら学生からの評価(総合評価)は、すべての科目の平均と同等か若干下であることが多く、そう高いとは言えません。要因の一つは、多くの教員で担当するオムニバス科目であることと、扱う内容について教員間での接続が考慮されていない点にあると考えています。こうした場合、学生にとっては総合的な評価がしづらいのではないかと思います。

また授業評価アンケートの自由記述欄で目立つ意見として、グループワークにおける作業時間の不足が挙げられています。プレゼンテーションにあたっては、スライド作成を中心とした準備時の負担が不公平であるといった意見も少なくありませんでした。

課題と展望

上に挙げた2点について早急に改善していく必要があります。授業全体を1人で担当することは現在の体制では難しいと思われるので、オムニバスという形態を維持した上で、教員間での接続を考慮することを考えていきます。まずはプレゼンテーションとグループワークの間で連携を図り、早い段階から、グループでのプレゼンテーションを見据えた課題設定を取り入れたいと思います。

「授業内容紹介」の項で述べましたように、授業を実施するためのリソースが整ってきました。従いまして、今後ご担当いただく先生方におかれましては、事前にそれらを確認いただいた上で、原則それに則った形で実施していただけるようお願い致します。ただしこれは、先生方ご自身による改訂を妨げるものではありません。より良い新たな授業内容を提案していただくことは歓迎致します。

「大学生になる」をはじめとした「初年次教育科目」は、これら以外の教養教育科目、専門教育科目にもつながっていく重要な科目として位置付けています。科目の運営については高等教育院が責任をもってあたらせていただきますが、実施においては多くの先生方のご協力が不可欠です。今後とも、より一層のご協力をお願い申し上げます。

事務局教務企画室より

『NCU 高等教育院通信』の最新号をお届けいたします。全学のFD活動や各部局における取り組み、旬なトピックスなど、“教育”に関する話題を広く皆様に提供していきますので、ご愛読いただければ幸いです。ぜひ取り上げてほしい話題などありましたら、下記までご連絡ください。